

楽しく夏休みの宿題づくり

～夏休み工作教室～

7月30日(水)と31日(木)の2日間、文化伝承館で毎年恒例の体験学習『夏休み工作教室』が開かれ、幼児から小学生とその親など約90人が参加しました。

参加した子どもたちは郷土資料館ボランティアグループ『SLG』の指導を受けながら、本立てや木製パズル、万華鏡などの製作に挑戦しました。

本立ては、子どもたちが金づちやのこぎりを使って製作。木製パズルは、厚い木板に思い思いの絵を描いた後、糸のこぎりで切っていくします。

使い慣れない工具を使っての作業に、子どもたちは悪戦苦闘。親きょうだいに手伝ってもらいながら、作品を完成させると、子どもたちはにっこりと笑みを浮かべていました。



音楽や料理を通して国際交流

～リスベツさんのデンマーク講座～

7月29日(火)、8月1日(金)・6日(水)の3日間、登別デンマーク協会主催の『リスベツさんのデンマーク講座』が市民会館などで開かれ、市民延べ100人が北欧の暮らしや文化などを学びました。

この講座は、デンマークとの交流を目的に活動している同協会が、毎年、デンマークから研修生を受け入れ、登別市民との文化交流を行っているものです。

今年の講座では6月に来日したリスベツ・ラウガセンさん(26歳・コペンハーゲン在住)が市民のみなさんにデンマークの子守唄やフォークソングを披露したり、デンマーク料理を一緒に作ったりして、楽しく交流しました。

リスベツさんは、この講座のほか市内の小・中学校などを訪問し、デンマークの文化を精力的に紹介。8月15日に帰国の途につきました。



サーカス・大道芸に大きな歓声

～わくわく広場のぼりべつ
『アートおどろく!のぼりべつ』～

7月26日(土)と27日(日)の2日間、登別マリパークニクス前庭で『わくわく広場のぼりべつ～アートおどろく!のぼりべつ』(わくわく広場のぼりべつ実行委員会主催)が開かれました。

昨年に続いてサーカスや大道芸、フェイスペイントや似顔絵描きなどが行われたほか、今回は、手作りの人形や木工品の販売も加わり、来場者を楽しませました。

また、千人鍋には、家族連れなどが列をつくり、登別近海でとれた海産物に舌鼓を打っていました。

盛りだくさんの催しの中、特に人気を呼んだのは、サーカスと大道芸。国内外で活躍する8人の芸人が空中ブランコや皿回しなどの曲芸を披露するたびに、観客から大きな歓声があがっていました。

